

# 中学校 B 言語活動による実技の意欲の向上と成果

柏木 孝介（葛北） 木内 史紀（香取） 岩沢 文雄（山武）  
石田 博信（柏） 鈴木 洋志（東総） 井島 彩美（葛南）

## 1. テーマの設定について

今年度のテーマである「活力ある児童生徒を育む体育指導のあり方」に基づき、体育学習の中での言語活動のあり方について改めて検討した。言語活動が行われる場として考えられるのは、ゲーム前の作戦会議や個人技能を高める活動の中と予想される。そこで、学習カードに仲間からのアドバイスや励ましの言葉等を記入する欄を設け、その結果から技能の向上や取り組み方、意識の変容を毎時間書かせた。そのような言語活動を意識的に促し、活発化していくことでどのような成果が得られるのかを検証するため、今回の研究テーマとした。

## 2. 実施方法について

授業の最後で学習カードに反省を記入する際に、一緒に練習やゲームを行った仲間からの具体的なアドバイスや励ましの言葉等を書く時間を設ける。また、単元の最後に記入する「～を終えて」に書かれている内容や授業中における生徒同士の言葉かけにも注目する。

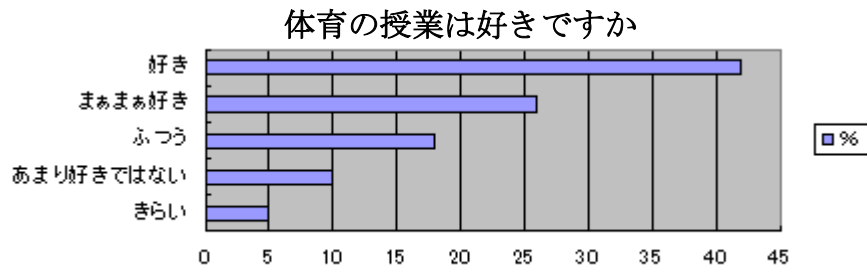
## 3. 課題のねらい

授業の最後に学習カードに記入するという見通しをもつことで、意識的に互いに練習やゲームの様子を見ることができよう。そのような視点をもつことで、授業を重ねるうちに、より上達するためにはどうしたらよいか、という筋道を立てて練習内容や作戦を考え、改善方法等を話し合えることも期待できる。また、言語活動の活発化によって、個人技能の向上はもとより、互いを高め合う雰囲気、集団意識の向上も期待できる。最後に、仲間からアドバイスをもらうことで、どのような効果があるのかをアンケートで調査し、今後の授業の中で言語活動の設定の仕方に役立てる。

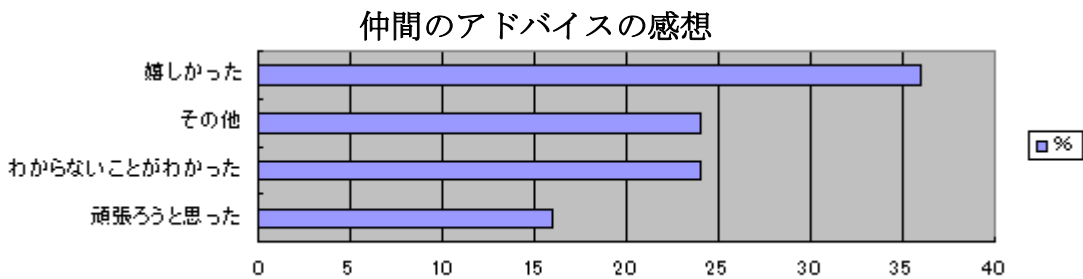
## 4. 今後の活動について

各学校で單元ごとに言語活動を実施し、アンケートを行う。その中でどのような効果が得られたのかを比較検討する。

5. アンケート結果（中学1年女子、102名対象）



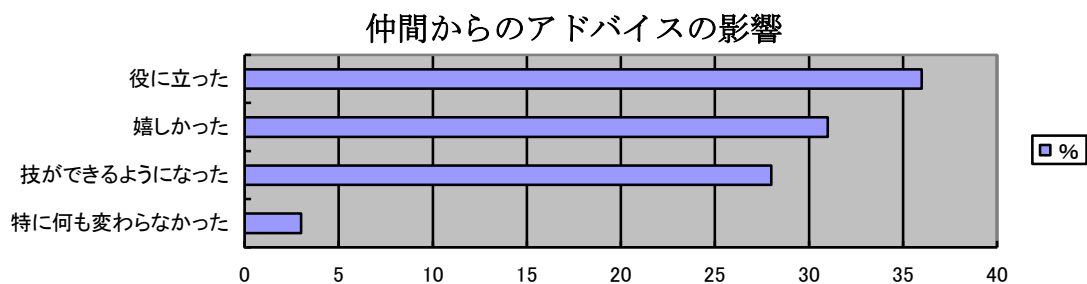
体育の授業が好きな生徒が多く、取り組みも大変意欲的である。運動が苦手な生徒でも目標をもって取り組もうとする姿勢が多く見られるので、授業も円滑に進めることができる。



その他の内容

- ・自分のためになった
- ・コツがわかった
- ・やる気がでた
- ・自信になった
- ・できるようになった
- ・悪いところを直そうと思った
- ・仲を深められた

仲間からのアドバイスが前向きな内容が多く、多くの生徒が自分にプラスの影響をもたらしたとアンケートで回答した。お互いにアドバイスや励ましの声をかけ合うことに対して、肯定的な内容が大変多かった。



その他

- ・一緒に頑張ろうと思った
- ・自信になった
- ・意識してできるようになった
- ・頑張ろうという気持ちになった
- ・やるぞという気持ちになった

6. 考察

今回の取り組みを受けて、仲間からのアドバイスで、できなかったことができるようになったという感想が最も多く、モチベーションが向上した生徒が多かった。また、諦めていた気持ちが友達からの声かけで前向きな気持ちに変わったという生徒も多く、仲間同士の声かけが活発化することで、技能の向上や仲間との深い関わりにもつながったようだ。今後も、体育学習の中で言語活動を意識的に促し、活発化させ、生徒の技能向上や授業への取り組みせ方の改善に役立てていきたい。